



スバルの「安心と愉しさ」をディーラーのオイル交換でも

富士重工が2017年4月から株式会社SUBARUに名称変更するのは、釈迦に説法だ。スバル(昂)という名も、富士重工の元となった中島飛行機の中の5社を富士重工業が吸収し「6社を統合」したことから「昂」六連星(スバルは統べる)統合するの意」となっているのは周知の事実。古くからヨーロッパではプレアデス星団として知られている。フランス語でプレアデス星団を意味する「レ・プレイアード(LES

PLEIADES)」。そう、スバルファンなら知っているスバルディーラーでいま大人気となっているプレミアム純正オイル「レ・プレイアードZERO」だ。

レ・プレイアードは、フランスのトタル社が製造・供給するスバル専用プレミアム純正オイルで、0W30と10W50と2製品がある。今回は、実用性に優れた0W30にフォーカスし、その実力を紐解いていきたい。「レ・プレイアードZERO」は、100%化学合成油(PAO)で、0W30という低粘度油である。NAエンジンはもちろんだが、高負荷が

掛かるターボエンジンでも耐熱性、潤滑性、そしてエンジン保護性能に優れ、低粘度のため抵抗が少なく燃費にも優れるという、耐久性と省燃費を両立した性能を持っている。

レ・プレイアードZEROは、2012年の発売以来、爆発的な人気を誇り、今なお、リピーターはもろろん、新規ユーザーが増え続けている。ではなぜ、これほどの短期間でレ・プレイアードZEROがスバルファンの間で浸透したのか。スバル部品用品



ディーラーで大人気の「レ・プレイアードZERO」とは？

プレミアム純正オイル「レ・プレイアード」の実力

スバルのエンジンは、すでに50年を数える伝統の水平対向エンジンレイアウト。また直噴式エンジンに、高性能なターボエンジン搭載車が多いなどとオイルには過酷な条件が何かと多い。しかもスバル車オーナーはひと際エンジンを回す傾向にある。ここ最近、そんなスバリスタ達が、信頼を寄せて使用している純正プレミアムオイルがある。しかも、そのオイルの実力はスバル技術本部が厳しい耐久試験の上で認めた「折り紙付き」だ。果たしてスバルが認めたそのプレミアムオイルの実力とはいかなるものなのか。

本部の国内商品部促進課の笠島秀文課長にお話を伺った。

「そもそもスバルはお客様に対して「安心とゆしき」を商品として提供して参りました。それをサービスマンと同じようにお客様に対して提供したいと考えました。スバル車をお持ちのお客様は商品知識が高い方が多く、こだわりをお持ちの方も多数いらっしゃいます。そういうお客様に向けて満足して頂ける商品をと私も考えています。そんななかで新車購入時に殆どのお客様にお申し込みいただいているのが「SUBARU U お得で安心 点検パック」です。

プレミアム「レ・プレイアド」についてお話をお聞きした国内商品部促進課長(右)と川口貴亮さん(左)



この点検パックでは、スバル純正オイルが基本使用オイルとなっており、新車購入時(車検更新時)にオイル代金を頂いている場合は、点検毎にオイル代金をお支払いいただくことはありませんが、より高性能を求めたいお客様のために、プレミアム純正オイル「レ・プレイアド」をご用意しています。もちろん通常のスタンダードオイルでも性能的にはまったく問題ありませんが、レ・プレイアドへのアップグレードは、点検パックにご加入している方であれば、オイル交換時に数千円プラスしていただくだけで(※1)交換が可能となっております。このようにスバルでは、燃費を損なうことなく、エンジンフィールも静粛性も体感できるほど向上するスーパープレミアムなオイルを用意し、安心してスバル車の性能を愉しんでもらえるようにしたのです。その結果、レ・プレイアド・ゼロは毎年160%ずつ販売量を伸ばしました。しかも未だに堅調に伸び続けています。

たしかにスバル乗りは、かなりモノに拘る人が多い。また一般オーナーでも、他メーカーのオーナーに比べてエンジンを良く回したりする傾向が見受けられるし、ターボエンジン車両の割合も圧倒的に多い。

「スバルオーナーの口コミで広がっているのが大きいようです。またリピーターの方も多いという報告も受けています。それでもまだ「レ・プレイアド zero」の潜在需要は眠っており、まだまだ広めて行きたいと考えております」とお話しいただいたのは、スバル部品用品本部

内部品部促進課の川口貴亮さんだ。

86/BRZレースでも大人気 BRZのオイル使用率は50%

スバルが社を挙げてレ・プレイアド・ゼロを推すのにも相応の理由がある。すでに生産されて50年となった水平対向エンジンは独自技術で成り立っている。しかも最近では直噴式エンジンとなり、ガソリンでオイルを希釈しにくい。さらに高性能のターボエンジンのラインナップが多いためオイルには辛い要因が数多い。

そのためスバルでは、オイルの純正指定をするためスバル技術本部内にあるベンチテスト室において「中高温耐久試験」と呼ばれる耐久試験を行っている。この試験では、アイドリングから5600回転までエンジンを各サイクルに分けて225時間にも及ぶ厳しい連続耐久ベンチテストに掛け、オイル性能を確認する。評価項目はエンジンオイルの平温の新油時、100時間後、225時間後で性能劣化を比較するというもの。さらにベンチに掛けられたエンジンは徹底的に分解されて、シリンダーヘッドやカムのスラッジ、ピストンニヤロツカーカバーのワニスの汚れ、ピストンリングの摩耗、クランクメタル、ジャーナル、コンロッドメタル、カムの摩耗に至るまで詳細チェックされる。こうして厳しいチェック項目をクリアし、スバル基準に達したオイルが、レ・プレイアド・ゼロだ。

先にも書いたように「レ・プレイアド zero」は、ベースのオイルに

PAO(ポリアルファオレフィン)を使用した100%化学合成油で、粘度は0W-30という俗にいう「シヤバシヤバ系」だ。

「0W」表記は、低温時の粘度を示す数字で、数字が低いほど粘度は低い。つまり低温時ではオイルの流動性が高く、エンジン始動時のエンジン保護性能に長け同時にフリクションが少ないことからエンジンレスポンスも良くなり省燃費にも繋がる。後半の数字の「30」は数字が多くなればなるほど高温時の粘度は高くなる。「レ・プレイアド zero」の

「30」は決して硬い方ではない。とすると高温時のエンジン保護性能が心配になるし、ましてやターボ装着車両では超高速回転で排気を過吸するタービンが焼き付かないか心配になる。しかしその点でも「レ・プレイアド zero」は、耐熱性に強くレース用オイルに使用されるPAOを原料としているほか、一般的な他

の0W-30と比較しても高温時の油膜が約20%も厚くなっているため、ターボ装着車両でも耐熱性は問題がないという。

低温時での保護性能や省燃費、高温時での保護性能や潤滑性能、静粛性などといった相反する性能を両立させているところが、「レ・プレイアド zero」がスーパープレミアムオイルたる所以である。しかもこのレ・プレイアド・ゼロはレースの現場でも大人気らしい。大盛り上がりを見せている86/BRZレースで使用しているユーザーが少ずつ増えており、チームのメカニックからの評判がすこぶるいいのだ。BRZでの使用率はなんと驚異の50%だという。過酷なモータースポーツの世界でも十分に性能を発揮し太鼓判をもらっているプレミアムオイルに、もはや疑う余地どころか使わない理由を見つかる方が難しいかもしれない。



TOTALとモータースポーツ

TOTALは世界41カ国以上で原油の採掘、世界150カ国以上に販売拠点を持つ世界第5位のフランスの総合メジャー石油会社だ。もちろんモータースポーツでの活躍も世界規模で、F1ではレッドブルで2010年から2013年まで4年連続でコンストラクターズタイトルを獲得。WRCでもシトロエンのセバスチャン・ローブにより、2004年から2012年まで9年連続でドライバーズチャンピオンを獲得。そのどちらへもTOTALは、チームへのテクニカルサポートしている。日本のスーパーGT選手権でもaprのトヨタ プリウスGTやニッサンGT-R GT3をテクニカルサポートするなどチャンピオンを争う最前線でチームを支えている。



※1:ディーラによって追加料金が異なります。